

神戸市

神戸市精神障害者地域移行・地域定着推進事業 ～検証と評価、そして実践へ～

神戸市では、新型コロナウイルスの影響により、これまで積極的に活動してきた支援者の熱意を冷まさないよう関係機関とともに課題を抽出し、解決方法を検討し次年度につなげる取り組みを行う。

また、これまで実施してきた取り組み（病院向け研修、地域の事業所のフォロー、課題抽出のための検討会など）に加え、広域的な連携体制構築のための課題を明確にし、推進に向けた取り組みを計画的に実施する。

1 県又は政令市・特別区の基礎情報

神戸市



取組内容 令和元年度まで

【ピアサポーター育成の取り組み】

- ・ピアサポーター養成研修・支援事業所研修
- ・ピアサポーターフォローアップ研修
- ・ピアサポーター活動報告会

【精神障害者の地域移行・地域定着の取り組み】

- ・精神障害者地域移行・地域定着推進事業
- ・ピアサポーター活用事業、地域移行・地域定着推進検討会等
- ・地域支援機能強化事業：障害者地域生活支援センターに地域支援機能強化専門員を配置し、地域移行に関係するネットワーク構築、地域住民に対する普及・啓発等をおこなう。
- ・神戸市グループホーム整備支援事業
- ・長期入院患者退院支援事業：生活保護法における長期入院患者のうち入院治療の必要性が低い者に対し退院を支援することにより、患者の適正な処遇を確保し、医療扶助の適正な給付を図る。

基本情報（都道府県等情報）

＜基本情報入力シート＞

自治体名（記入してください）

神戸市

（※「■網掛け」部分及び「●」部分に半角数字で入力してください）

障害保健福祉圏域数（R2年4月時点）	1	か所
市町村数（R2年4月時点）	政令市	市町村
人口（R2年8月時点）	1,518,283	人
精神科病院の数（R元年6月時点）	14	病院
精神科病床数（R元年6月時点）	3,575	床
入院精神障害者数 （R元年6月時点）	合計	3,070 人
	3か月未満（％：構成割合）	902 人 29.4 ％
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）	569 人 18.5 ％
	1年以上（％：構成割合）	1,599 人
		うち65歳未満 うち65歳以上
	退院率（H29年度NDBによる）	入院後3か月時点
入院後6か月時点		83.0 ％
入院後1年時点		91.0 ％
相談支援事業所数 （R2年4月時点）	基幹相談支援センター数	1 か所
	一般相談支援事業所数	33 か所
	特定相談支援事業所数	67 か所
保健所数（R2年4月時点）	1	か所
（自立支援）協議会の開催頻度（R1年度）	（自立支援）協議会の開催頻度	9区中2区に精神専門部会を有する 回/年
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	●有・無
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（R2年4月時点）	都道府県	●有・無 1 か所
	障害保健福祉圏域	●有・無 / / か所/障害圏域数
	市町村	●有・無 / / か所/市町村数

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

入院生活

地域生活のはじまり ⇒ 安心でき、安定した地域生活



精神障害者地域移行・地域定着推進事業（地域移行・地域定着推進連携会議及び検討会）

個別支援体制・地域生活定着支援体制の構築

精神科病院

<退院支援>

- ・退院意欲喚起
- ・生活能力の向上(疾病教育、服薬管理、金銭管理等)
- ・地域援助事業者との連携、地域事業所での体験プログラムの活用 など
- ・退院後生活環境相談員(法)
- ・入院当初からの医療保護入院者への退院支援
- ・医療保護入院者退院支援委員会の開催
- ・退院支援相談員(診療報酬)
- ・精神療養病棟での退院支援

<医療機関での地域定着支援>

- ・定期通院支援（往診や訪問看護の導入・地域支援者との連携）

☆ピアサポーター ピアサポーターの活用事業

<退院に向けた支援>

- ・精神科病院等での患者向け体験談発表活動
- ・地域移行利用希望者への個別支援
- ・精神科病院入院患者との個別面談

<地域定着支援>

- ・事業所職員と同行して訪問し個別支援
- <ピアサポーター養成・スキルアップ研修>

障害福祉サービス事業所

<退院支援>

- ・入院患者の体験プログラムの受け入れ
- <地域定着支援>
- ・サービス提供、医療機関との連携

相談支援事業所

☆ ピアサポーターの積極的活用

<退院に向けた支援>

- ・地域移行支援サービス提供

<地域定着支援>

- ・医療機関・関係機関との連携、地域定着支援サービス提供

訪問看護ステーション

- ・精神科訪問看護の提供

精神科クリニック

- ・各区との連携

委託法人（コーディネーター）

- ・地域移行・地域定着推進連携会議（検討会含む）の運営
- ・ピアサポーターの活用に係る事業（養成・育成・ピアサポーター支援者向け研修）
- ・精神科病院向け研修の実施
- ・障害福祉サービス事業所等へのスーパーバイズ
- ・普及啓発

区（精神保健福祉相談員）

- ・障害福祉サービス利用申請受付
- ・本人、支援者からの相談・助言等
- ・精神保健医療に関する相談

区（生活支援課退院支援員）

- ・長期入院患者退院支援
- ・ピアサポーターとの同行支援等

市（精神保健福祉センター・障害者支援課・障害福祉課）

- ・地域移行支援方策の検証（地域移行・地域定着連携会議 自立支援協議会 等）
- ・グループホームなどの施設整備
- ・検証事業の評価（市民福祉調査委員会精神保健福祉専門分科会）
- ・神戸市登録ピアサポーターの登録

精神科救急医療相談

- ・夜間・休日の急を要する精神保健医療に関する相談

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

（1）神戸市精神障害者地域移行・地域定着推進事業

- ・地域移行・地域定着推進連携会議の開催 年2回
- ・精神障害者地域移行・地域定着推進検討会の開催（実務者レベルでの具体的な議論）
- ・普及啓発（地域住民向け研修会の開催等）
- ・ピアサポートの活用に係る事業（養成、育成、支援）
 - 1) ピアサポーター養成研修、ピアサポーター支援事業所研修
 - 2) 神戸市登録ピアサポーターによる精神障害者の地域移行に係る事業
 - ①地域生活報告会（体験談プログラム発表、病棟内での懇談会）の実施
入院患者、病院職員への意識付け
 - ②地域移行・地域定着支援希望者への個別支援
 - 3) ピアサポーター報告会（ピアサポーターの実践拡大を目指す）
- ・啓発ポスターの病棟内での掲示
- ・措置入院者等の退院後の医療等の継続支援
- ・精神科病院を対象とした地域移行推進研修（精神科病院職員（看護師、PSW）を主な対象）
- ・地域移行支援に取り組む相談支援事業所の育成（研修・個別支援に伴うスーパーバイズ）
- ・地域包括ケアシステムの構築状況の評価（抽出した課題に対する具体的対応策の検討）

（2）精神科救急医療相談＜保健課＞

（3）地域支援機能強化事業＜障害者支援課＞

（4）神戸市グループホーム整備支援事業＜障害者支援課＞

（5）長期入院患者退院支援事業＜保護課＞

3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

- 平成16年度から、神戸市や兵庫県が事業主体となった「精神障害者地域移行支援事業」を実施。
- 平成24年度から、障害者自立支援法（現：障害者総合支援法）の一部改正により、精神科病院の入院患者に対する個別支援が、「地域相談支援、地域移行」として個別給付化されたため、「精神障害者地域移行推進事業」としてピアサポーターの養成・活動支援を中心とした事業に見直しを図った。地域移行進連事業協議会・研修会の実施やピアサポーターの活用による、病院内での入院患者に向けた発表活動や個別支援活動を実施。同時にピアサポーター養成研修も行う。
- 平成28年度は、「長期入院精神障害者地域移行総合的推進体制検証事業」を受け、市内で地域移行・地域定着推進のリーダーシップを取れる2法人に業務委託して、関係機関を集めての連携会議、関係機関による検討会の実施により対策の検討をすすめた。その後も同2法人へ委託を継続。
- 平成29年度は、「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業」として、地域包括ケアシステムづくりを目指し、検討会を軸に事業を実施した。
- 平成30年度は、取組みを神戸市の関係機関に広く周知し、より一層推進が図れるよう、『連携の輪を広げる』というスローガンを打ち出し、検討会を活用しながら市内の関係機関との連携強化を目指した。
- 令和元年度は、これまでの取組みにより病院からの地域移行支援サービス利用者が増加するなど、地域移行支援の意識が高まってきたことから数値目標を掲げ『実行』を意識し関係機関に働きかけた。また、地域の実情を把握するため地域アセスメントを実施し地域の課題の抽出および整理を行った。

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

＜令和元年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R1年度当初)	実績値 (R1年度末)	具体的な成果・効果
①	個別支援人数 20 支援に関わる 相談支援事業 所数 8	個別支援人数 28 支援に関わる 相談支援事業 所数	精神科病院への研修を企画、実施することで院内の地域移行の意識に変化が起きた。また、具体的な数値目標を掲げたことで関係者の取り組む意識が前向きになり、結果的に支援人数と協力事業所の数が増えた。
②ピアサポーターの活用状況	個別支援可能なピア 7人	個別支援可能なピア 6人	目標値には至らなかったが、個別支援可能なピアが5人から6人に増えた。複数のピアがそれぞれに活動できるようになり、底辺が広がった。活動報告会の実施等により、ピア同士の横のつながりも強化され、意欲や質の確保につながった。

5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

【特徴(強み)】

1. 地域の病院や事業所等、関係機関の顔の見える関係が構築されている。
会議や研修会を通して精神科病院の地域移行への意識が高まってきており、地域移行支援サービス利用者が増えている。
検討会を開催することで、課題解決に向けて具体的な議論ができる。
2. 神戸市登録ピアサポーターと相談事業所が連携した活動が増えてきている。
病院でのピアサポーターの活躍の場も増え、期待が高まっている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
地域移行支援サービス利用者が増えたのに対し、対応できる相談支援事業所が少ない。	相談支援事業所に地域移行支援の必要性を伝える。事業所が抱える課題を聞き取り、解決策を検討することで、個別支援に対応できるよう導く。個別にスーパーバイズを行い、フォローアップしていく。	行政	相談支援事業所を管轄する障害者支援課と協議。個別のスーパーバイズ。
		医療	病院内での対象者の選定。職員の意識を高める研修を企画、実施する。
		福祉	積極的に地域移行・地域定着に取り組む。
		その他関係機関・住民等	
地域移行とその後の地域定着まで取り組める地域のピアサポーター・事業所が少ない。	ピアサポーター及びピアサポーターを支える事業所を養成・育成・支援する。ピアサポーターと事業所が継続性と高い質を持って活動できるよう支援する。行政・医療・地域が一体となって、ピアサポーターを活用した地域移行に取り組む。	行政	ピアサポーター及び事業所を養成・育成・支援する。仕組みづくりを行う。
		医療	病院内スタッフ、患者への働きかけを行う。新たなピアサポーターを養成できるよう、関わりのある患者にアプローチする(DCプログラム等)。
		福祉	地域移行・定着の取り組みを検討、実施する。
		その他関係機関・住民等	

課題解決の達成度を測る指標	現状値(今年度当初)	目標値(令和2年度末)	見込んでいる成果・効果
①相談支援事業所数	地域移行支援サービスに取り組む一般相談支援事業所数 4	地域移行支援サービスに取り組む一般相談支援事業所数 6	聞き取りやスーパーバイズを行い、受託法人が共に取り組むことで支援事業所を増やし、多くの個別支援に対応可能となる。
②ピアサポーターの活用状況	個別支援可能なピア6人	個別支援可能なピア10人	地域移行支援の促進、ピアサポーターの有用性への理解が進む。ピアサポーターを増やすことでより多くの患者に支援できるようになる。

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
R2年8月	ピアサポーターフォローアップ研修	共に学ぶ場を持つことで、ピアサポーターの意識を高め、資質向上と日々の活動のスキルアップを目指す。
R2年9月	第1回地域移行・地域定着推進連携会議(年2回)	昨年度の成果と課題、今年度の取り組みを関係機関と共有し、それぞれの立場でできることを見出す。
R2年9月	第1回地域移行・地域定着推進検討会(年4回)	病院関係者と地域の支援者に分かれ、それぞれの課題点と解決策を検討する。
R2年10月	ピアサポーター養成研修(2回1クール)	地域移行・地域定着のために動けるピアサポーターを養成する。継続性のある質の高いピアサポート活動を行える人を養成する。
R2年2月	普及啓発活動	民生委員を対象に、地域移行・地域定着推進事業の概要や精神障害者が地域で暮らす時の関係機関との連携について説明し理解を深める。
R2年3月	第2回地域移行・地域定着推進連携会議	今年度の成果と課題を振り返り、次年度に取り組むべき内容を提示する。
R2年7月～ R3年3月	神戸市登録ピアサポーター報告会(月1回) 相談支援事業所へのスーパーバイズ(適宜) 精神科病院向け研修(適宜)	現在活動中のピアサポーターとそれを支える事業所が、ピアサポート活動の報告・交流・研鑽を行う。 地域移行支援に携わる相談支援事業所の困りごとを聞き、適宜対応する。 推進事業で作成した研修資料をもとに地域移行支援の流れや関係機関との連携などについて講義をし理解を深める。